

ともにプロジェクト推進店（仮）

1. ワーキンググループでの意見

- 障がいのある人への配慮を心がけている飲食店などから「ともにプロジェクト推進店（仮）」になってもらってはどうか。
 - ・プロジェクトをPRするのぼりを立ててもらおう
 - ・障がい福祉施設などの授産製品にロゴマークのシールを貼ってもらおう
 - ・「ともにプロジェクト推進店」として市ホームページに掲載する
 - ・優先駐車場や車いす対応トイレの有無などのバリアフリー情報も併せて掲載する
- ログマークを貼るだけでは、プロジェクトの趣旨が伝わらないため、どのようなプロジェクトなのかわかってもらうための工夫が必要。

2. 来年度の取り組みの方向性

- ① 「障がいの有無に関わらず、誰もが安心して行けるお店」として、優先駐車場や車いす対応トイレなどのハード面の整備情報を発信
 - ☛ 市ホームページへの掲載や「バリアフリー情報発信アプリ」との連携を検討
- ② ハード面の整備だけでなく、ソフト面の取り組み（合理的配慮の事例など）を普及
 - ☛ 「ともにプロジェクト推進店」としてロゴマークのステッカーやのぼりを店頭に掲出してもらい、プロジェクトのPRを通じて合理的配慮の考え方を広めていく。

（取り組みのイメージ）



バリアフリー情報だけでなく、合理的配慮の事例を紹介していく。

- 例) 視覚障がい：メニューを読み上げ、分量や材料についても説明する
 肢体不自由：車いすのまま利用できる入口付近のテーブルへ案内
 発達障がい：落ち着いて食事ができるよう、個室を用意